

真宗総合研究所

◇真宗学事研究講演会

九月十四日(水) 午後四時十分

於 会議室(研究所内)

「明治・大正期の日本教育通史」

本学教授 大井 令雄氏

◇海外仏教研究会

\* 七月十四日(木) 午後四時十分

於 会議室(研究所内)

「Joyōji Eon's Contribution to

Chinese Pure Land Buddhism」

Assistant Professor / Assistant Dean

Institute of Buddhist Studies

Dr. Kenneth K. Tanaka

\* 九月九日(金) 午後四時十分

於 会議室(研究所内)

「Parallel Ideas in Abhidarmakosā-

Bhāṣya and Patañjala-Yoga-Bhāṣya」

ジャインナ研究所所長

(Jain Visva Bhārati)

Dr. Nathmal Tatia

真宗学会

◇九月十六日(金) 二時三十分

於 尋源講堂

鷲音忌(曾我量深先生十八回忌) 法要

講演 「願生浄土」

本学教授 寺川俊昭先生

(鷲音忌実行委員会主催・真宗学会協賛)

宗教学会

◇春期(第七回「大拙忌」記念)講演会

七月九日(土) 午後一時

於 尋源講堂

大拙忌に憶う

—— 今なぜ新宗教の時代か ——

淡交社副社長 白井 史郎氏

西洋哲学・倫理学会

◇公開講演会

七月五日(火) 午後三時

於 多目的ホール

「異常のなかの正常」と

「正常のなかの異常」

特別研修員 中村 正氏

習慣と懷疑

—— C.S. パースのプラグマティズム

特別研修員 渡辺 啓真氏

出席者 訓覇教授、鈴木教授、池上助教

はじめ教員、学生多数。熱心な質疑応答

が交され、終了後茶話会がもたれた。

◇西洋哲学・倫理学会夏期合宿

八月二十二日(月)～二十八日(日)

於 福井県武生市

善久寺・前特修員 門脇健氏自坊

須藤専任講師、門脇氏、渡辺特修員は

が院生、学生、計九名が参加。

Kant: Grundlegung zur Metaphysik

der Sitten の講読が連日熱心に行われた。

また、学習の合い間に、海水浴、東尋坊

見学などのレクリエーションを行ない、

親睦を深めた。

国史学会

◇研究旅行

九月二十八日(水)～三十日(金)

日程 二泊三日 行先: 東美濃方面

九月二十八日 午前七時二十分京都駅八

条口集合。以降貸切バスにて不破関跡資

料館、美濃国分寺跡史料館、猿投神社、舞木麿寺、恩真寺を見学。香嵐溪の白鷺館泊。

九月二十九日 足助八幡宮、岩村城跡、藤村記念館、東円寺を見学。恵那峡の恵那グラウンドホテル泊。

九月三十日 苗木城跡、元屋敷窯跡、岐阜県陶磁器資料館、永保寺を見学。午後六時半に京都駅到着。解散。

参加者 堅田・大桑教授、豊島・木場専任講師、宮崎特別研修員、大学院生六名、学部生十八名、聴講生二名。

中国文学会・国文学会

◇文芸学会公開講演会

七月五日(火) 午後一時

於 多目的ホール

「明治四十年代の森鷗外」

本学助教授 喜多川恒男氏

「漢詩と和歌」

京都府立大学名誉教授

文学博士 花房 英樹氏

学内外から多数の聴講を得、盛会裡に

終えることができた。

◇『文芸論叢』第三十一号発行

(掲載論文目次)

『桐の花』の図式

中野 良一

『とはすがたり』における足摺説話の

特性——伝承的視点に立って——

土門 政和

謝霊運の『仏影銘』について——その

仏教思想と山水表現の萌芽——

鶺鴒 光昌

鶺鴒 光昌

『三教指帰成安注』所引「玉編」佚文

鶺鴒 光昌

集並びに研究

鶺鴒 光昌

集並びに研究

鶺鴒 光昌

集並びに研究

鶺鴒 光昌

佐藤 義寛

中国文学会

◇碩学の話を聞く会(中国文学会共催)

八月二十九日(月) 午後二時

於 尋源講堂

講師 村上 嘉實氏

元関西学院大学教授文学博士

講題 師を語る

——私が受けた学問——

独文学会

◇「ゲーテ自然科学の集い」京都研究会

※七月十六日(土) 午後一時

於 博綜館第三会議室

「ドイツにおけるゲーテ自然科学研究

の動向」

京都大学助教授 高橋 義人氏

※九月二十四日(土) 午後一時

「植物の螺旋的傾向」輪読

参加者 関西地区大学の教授十五名